

平成 19 年度生物産業インターンシップ 報告書

短期大学部・生物生産技術学科

実習先

小田急フーリスト新百合ヶ丘エルミロード店

実習期間

平成 19 年 3 月 22 日～4 月 1 日

実習内容

毎日行う基本的な仕事として、ダンボール潰しとゴミ捨て（量が多いので台車を使用）や掃除を行った。

花屋にとって重要な仕事である鉢物のかん水や切り花の水換え、水上げもした。水換えをするときは、バクテリアが繁殖してしまうのを防ぐためにバケツや桶の中を洗剤でしっかり洗ってから、水を入れ換えなければならなかった。

水上げは、チューリップ、ヒマワリ、アルストロメリア、ナゲシコ、デルフィニウム、バラ、スイートピー、キなどたくさんの水上げの方法を教えていただき、実際に作業させていただいた。道具は、切り花を巻くための新聞紙、はさみ、セロハンテープ、ゴミ袋、水あげ処理後に入れておく深めで清潔な容器（花桶）、金槌、トゲ抜き、水がたくさん入ったバケツ、軍手を使用した。デルフィニウムでは金槌、バラはトゲ抜きを使用するなど花の種類によって水あげ方法はそれぞれ異なっており、植物の特徴を知る上でも非常に勉強になった。また、これらは後の大学の講義で重要性が理解できた。

仏花の包装、補充と切り花をオリエントで巻く作業をした。主に、ユリ、デンファレ、ナゲシコ、フリージアなどの切り花を扱った。オリエントの場合、花粉を取り除くと花持ちがよくなるため、花粉を取り除いた。また、元気のあるものと無いものを組み合わせて巻いたり、プライスを書くときは、名前と値段を目立たせるために細字と太字を使い分けて書くなどの工夫がされていた。また、会社等の人事異動、退職のシーズンということもあり、梱包作業をたくさんした。他にも多摩センター店に吉野桜をとりに行ったり、近くの区役所まで直送を行ったりもした。



新百合ヶ丘エルミロード店

実習効果

今回のインターンシップを通して、消費者、生産者側からではなく、小売店側からの視点で見

た考え方、また花屋においての植物のかん水、切り花の水あげなどの手入れの仕方などを知ることができ、大変勉強になった。花屋は植物を扱うため生産者の知識も必要だし、また消費者の購買意欲を掻き立てなくてはならないため、自分たちが消費者の立場に立って考えなくてはならない。そのため、知識や発想力、そしていろんな角度から物事を捉える、客観視できるといった柔軟性も必要だと感じた。社会に出れば、花屋に限らずそのよう考え方を求められることがたくさん出てくるだろうし、また花屋の仕事として大切な接客も、今後の自分のためになったと思うので、卒業する前にこのような貴重な経験をすることができてよかった。

感想

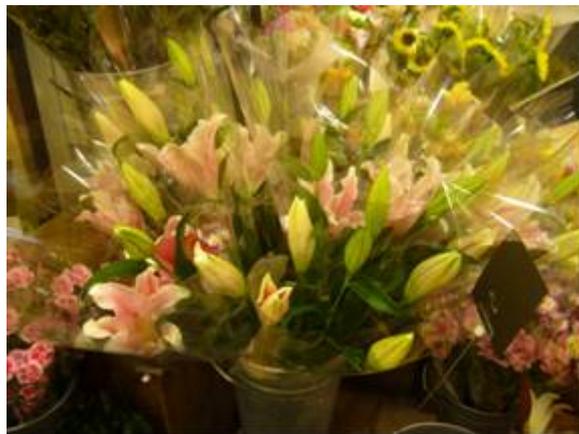
花屋はお客さんに対して、また植物に対して気を配らなくてはいけない仕事であり、接客、技術の両方を必要とする仕事だということを改めて実感した。また、花に囲まれての仕事のため一見華やかな仕事に感じられることが多いが、実際は力仕事が多く、さらに水を使うため手が荒れたりするなど大変な仕事であるということも感じた。

事前研修では坂本社長から、厳しい花業界で生き残っていくためには他社と差をつけるため、ギフトや店構え、物流に力を入れているということ以外にも、特に接客サービスに力を入れているということをお聞きした。ただ、接客と挨拶をするだけではなく、プラスアルファの情報やアドバイスを提供することも大切であり、またお客さんもそれを求めているということをこのインターンシップを通じて感じた。

今回のインターンシップでは、かん水、水あげ、梱包意外にも切花をリフトで巻く作業や、仏花、ミズケづくりなど店頭にもそのまま並べられる作業までさせていただき、大変貴重な経験となった。

自分が作ったものが店頭にも並べられるのはもちろんのことお客さんがその商品を手に入れているのを見たときは本当に嬉しい気持ちになった。ギフトにおいては、送る側の想いをこめて自分たちが植物を使ってアレンジすることで相手に伝えるという仕事のため、とても大切な仲介役を任されている感じがした。

好きな植物に囲まれて仕事ができるということだけではなく、自分たちがラッピングやアレンジしたのを見て喜んでもらえたり、明るい気持ちになってもらえたりすることができることに携われる仕事は花屋ならではもののだと思った。またそのように感じてもらえること、その姿を見ることができるといことはとても嬉しいことであり、やりがいのある仕事だということはこの10日間のインターンシップを通して感じた。



包装したオリエンタルリリー